

ふるさと再発見 第93回

Re:discovery Omihachiman

安土城築城450年⑥

ヴァリニャーノが 見た安土城

「安土城」と聞くと、多くの人が織田信長や壮麗な天主を思い浮かべるでしょう。しかし、この城は日本国内だけでなく、遠くヨーロッパにもその名を知られた「世界へ開かれた城」でもありました。

天正9（1581）年、キリスト教布教を統括するために来日していた、イエズス会巡察師アレックスandro・ヴァリニャーノは、京都や安土を訪れ、信長と面会しました。ヴァリニャーノが残した『日本巡察記』からは、信長が手厚くもてなしたことがうかがえます。安土を去る際には、孟蘭盆会という特別な宴を開き、見送ったと伝えられています。

ヴァリニャーノは安土城の壮さや城下町の活気に深い感銘を受け、その様子をヨーロッパへ伝えていきます。信長に仕えた尾張熱田出身の宮大工・岡部又右衛門が棟梁を務めた天主は豪華絢爛で、「天下布武」を掲げた



孟蘭盆会（VR安土城より）

信長の権威を象徴するものでした。また、安土城は単なる戦のための城ではなく、政治・経済・文化の中心地として整備されました。楽市楽座によって城下町は国内外から多くの人や物が集まり、国際色豊かな場所でした。安土は、日本と世界を結ぶ窓口であったことがうかがえます。

こうした海外との交流の中から誕生したのが、天正遣欧少年使節団です。南蛮文化や海外との交流を前向きに捉えていた信長は、安土の地にキリスト教の教育機関「セミナリヨ」の設立を認めました。日本の少年たちは、ラテン語やヨーロッパの音楽、神学などを学び、日本と西洋をつなぐ人材として育てられました。その後、少年らの使節団は、ヴァリニャーノの計画によって、ヨーロッパへ渡ります。使節団はローマにて教皇に謁見し、信長が絵師・狩野永徳に描かせた、安土城とその城下町を描いた屏風を献上したと伝えられています。



城下町から天主の遠景（VR安土城より）

築城開始から450年を迎える安土城。石垣が残る現在も、この地には信長が描いた世界へのまなざしと、それを受け継いだ人々の歩みが息づいています。安土城跡を訪れる際は、壮麗な天主の姿だけでなく、この地から世界へ広がった交流の歴史にも思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

文（文化振興課・永福）

広報おうみはちまん

令和8年9月号

編集・発行／近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp
WEB https://www.city.omihachiman.lg.jp

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE



人口と世帯

令和8年8月1日現在
()は前月比

総数	81,678人	(+ 1)
男	40,165人	(+ 6)
女	41,513人	(- 5)
世帯	36,690世帯	(+ 21)

※外国人住民(43か国・地域／2,424人)を含みます。